



楓

ふうえん

園

特集

東洋英和女学院創立130周年 東洋英和幼稚園創立100周年

創立130周年記念式

創立130周年記念教育シンポジウム

東洋英和幼稚園創立100周年を迎えて

5 NEWS 学院／大学・大学院／中高部／小学部／
 東洋英和幼稚園／大学付属かえで幼稚園

12 英和の日々

13 この人に聞く 和田 昭允

14 聖書の言葉／訃報／史料室レター／TOYO Wa-Wa

15 英和星空探訪／同窓会より／後援会より／お知らせ

TOYO EIWA JOGAKUIN
 Public Relations Report



創立130周年記念式

2014年11月6日、学院の創立130周年を祝い、記念式を執り行いました

東洋英和女学院創立一三〇周年 東洋英和幼稚園創立一〇〇周年

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、
あなたの神である主を愛しなさい。
隣人を自分のように愛しなさい。

マルコによる福音書 一三章三〇節・三一節

創立一三〇周年記念式 式辞



式辞：深町 正信 院長

皆さん、おはようございます。今日は何の日でしょうか？ 今日には東洋英和女学院が作られてから一三〇年目を迎えたことをお祝いする記念の日です。このように導いてくださった神様に感謝して、喜びを分かち合うために、皆がこのように集まり、東洋英和女学院の誕生を一緒にお祝いすることができましたことをとても嬉しく思います。更に、嬉しいことに、今朝はいつも東洋英和女学院のことを考えていくくださる理事、評議員、監事の先生方、皆さんのことをいつも心配してくださる後援会のお父様、母の会のお母様、そして卒業生の代表の方々もお

祝いに駆け付けてくださいました。これらの方々から「ありがとう」と感謝をいたしました。

現在、東洋英和女学院は幼稚園から大学、大学院まで学んでいる人の数は四二一九人、また、皆さんに毎日、いろいろなことを教えてくださっている専任の教職員の先生方は五九六人いる大きな女学院となりました。今から一三〇年前、僅か二名の女子生徒で始まった小さな学校が今、このように大きな学校となりました。これは、天の父なる神様が昔も、今も、これからも、この東洋英和女学院に学び、働く一人ひとりをいつも守り、

二〇一四年一月六日の創立一三〇周年記念日に、記念式と教育シンポジウムを行いました。記念式は、東洋英和幼稚園の園児、小学部の児童、中高部の生徒、大学・大学院の学生代表、教職員、ご来賓の方々が集い、小学部校庭で行う予定でしたが、雨のため、小学部講堂と中高部の新マーガレット・クレイグ記念講堂に分かれて行いました。

今号の特集では、創立記念日の様子と、一〇〇周年を迎えた東洋英和幼稚園についてお伝えいたします。

導き、支えていくくださるからです。

私たちはこれからも、天の父なる神様の豊かなお守りと、お導きをうけて、東洋英和女学院がもっと、もっと神様に喜ばれる、素晴らしい女学院となるように、ここに集まった一人ひとりが心からお祈りし、先ほど耳にした聖書の言葉である女学院のスクール・モットーの「敬神奉仕」の心を大切にして、実行してゆきたいと心から願います。

空を見上げてみると、そこには私たちの目には見えませんが、実はたくさん空の道がつけられているのです。飛行機は、その空に作られた航空路の上を、ア

院長 深町 正信



讃美歌:こどもさんびか14番「うれしいあさよ」



前奏:小学部エンジェル・リンガーズ



聖書・祈禱:池田 明史 大学学長



司式:吾妻 國年 副院長

メリカの空港を目指して飛んでゆけば、その目的地に無事に着くことができるのです。もしも、飛行機のパイロットがその航空路を無視して、勝手に広い空を飛んで行くならば、必ず大きな飛行機事故を引き起こすことになるでしょう。それと同じように、あの広い海にも無数の道が作られています。船長や航海士がそれを無視して、勝手に、海の上を航海したならば、その船はきっと大きな岩や危険な浅瀬に乗り上げて、船は沈没してしまうでしょう。

私たちの人生もそれと同じことが言えるのです。聖書のヨハネによる福音書一四章六節をみると、主イエスはこう言われています。「わたしは道であり、真理であり、いのちである。わたしをとおらなければ、誰も父のもとに行くことができない」とあります。この主イエス様のお言葉はこういう意味です。第一に、私たちの目には見えませんが、天の父なる神様に通じる天国への道をもっとよく知りたいならば、聖書の主イエス様の言葉によく学び、よく聞きなさいと言われるのです。

道ということで次に思い起こすことは、道には必ずガイド、道案内人がいるということです。この天の父なる神様に通じる天国への道を一番よく知っているのは神の子、主イエス様です。主イエス様は弱い、迷いやすい、間違いやすい、私たち一人ひとりを天の父なる神様のもとに確かに導いてくださる方なのです。そして、その父なる神様への道をすべて記す地図にあたるのが、実はこの、聖書です。どうか毎朝の学校礼拝、チャペルで、聖書のお言葉をよく良く学び、天国への道、天の父なる神様への道をこれからも良く学び、東洋英和女学院が主なる神様にもっともっと、祝福される素晴らしい女学院となるために、ここにいる皆の祈りと行いで実現してゆきましょう。東洋英和女学院創立一三〇年おめでとうございます。

記念グッズのご紹介

学院創立130周年、東洋英和幼稚園創立100周年、そして大学開学25周年の記念として作成したグッズをご紹介します。このグッズは、園児・児童・生徒・学生をはじめ関係者や教職員に配布しました。



学院創設者ミス・カートメルや学院各部の写真を集めた絵葉書10枚セット



保護者の方によるデザインの手提げ袋



岩倉暢子さんデザインのクリアファイル (1997年高等部卒・NHKデザイナー)



特製の箱に入った資生堂パーラーのお菓子(ラ・ガナシュ)

創立一三〇周年記念教育シンポジウム

副院長 吾妻 國年



コーディネーター 嶋田 順好 先生
(宮城学院学院長)



「シンポジウムにあたって」 深町 正信 院長



「開会の挨拶」 水澤 郁夫 理事長



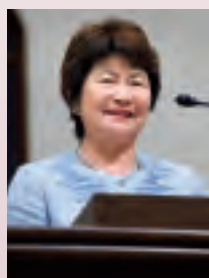
第2部 討論と検討—パネラー間討議

開会の挨拶に立った水澤理事長の「東洋英和の歴史の中で初めての企画である」のお言葉通り、創立一三〇周年記念として行った教育シンポジウムは、画期的な意義を有するものでした。これは深町院長の、「変転する時代精神と社会環境の中で、今こそ英和教育の原点を踏まえて、皆で課題・問題に取り組み、意見を交わして各部同士の相互理解を深め、心を合わせて、前足を切り拓いていくための具体的契機としたい」との、深いお考えと発議によるものです。総司会者には、嶋田順好先生(宮城学院学院長)がお越しくださり、高い識見と豊かな御経験に基づ

いて、シンポジウムを導いてくださいました。まことに感謝でありました。

第一部「発題」として、先ず鈴木幼稚園長が「幼稚園創立の経緯と一〇〇周年を迎えた現況と今後の展望」について報告をされ、次いで「小学部の使命は、未来の地球のために愛と平和の心と力を育てることである」と山本小学部長が語られました。石澤中学部長は、現今の「道徳の教科化」の動向に対して、「敬神奉仕」に基づく人格教育の使命の再確認をされ、露木高等部長は「変えてはならぬものと、時代に即して変えるべきを考える教育」について、そして池田学部長は「建学理念の共有と展開の多様性(豊穰さ)の希求」に関して、其々方説されました。おわりに山北同窓会会長は「敬神奉仕」の学院モットーの種を播き続けることが、過去と未来を結ぶ唯一の道である」と明言されました。第二部「討論と検討」で熱心な質疑と応答が行われ、シンポジウムらしい展開となりました。出席者の多くから「大変意義深いものだった」との感想の言葉が寄せられています。今回は教職員と一定の学院関係者の出席とさせていただきますが、今後は、当初からの計画通り、同窓会員、生徒・学生、保護者方の参加の会も企画していく予定です。なおシンポジウムの模様は、今後小冊子にまとめて発刊する予定としています。

教育シンポジウム参加パネリスト



山北 千世
同窓会会長



鈴木 法子
東洋英和幼稚園長



山本 香織
小学部長



石澤 友康
中学部長



露木 美奈子
高等部長



池田 明史
大学学長

東洋英和幼稚園創立一〇〇周年を迎えて

東洋英和幼稚園長

鈴木法子



東洋英和幼稚園
100周年ロゴマーク



「東洋英和幼稚園100周年のうた」の楽譜



東洋英和幼稚園は学院創立三〇年後の一四一四(大正三)年に創立されました。ですから二〇一四年度は、幼稚園創立一〇〇周年という恵み溢れた時を過ごしております。

初代園長でいらしたブラックモア先生は幼稚園創立二〇周年の時に、創立の経緯を次のように記しておられます。

東洋英和女学校が二年間の予科と五年間の本科を学年制としていた時分に、既に幼稚園創立の種は時かれたのでした。その時分、在校生の妹さんたちや、近所の小さいお子さんたちのために学校の中に場所が必要だという声が高くなりました。そこで、それら「小さい方」のために組が作られ、やがてそれは尋常小学校に

なりました。ところが、それよりもなお「小さい方」のためにも組を作ってほしいという注文が又起ってまいりました。この一番小さい方たちの組は、学校中での興味と喜びの中心でありました。然しながら、校舎は狭い上に、生徒は増加するばかりでしたから、教室という教室は凡て学生のために用いられ、幼稚園生の場所は得られそうもない有様でした。

一九一三年のことでありました。休暇で帰国して居りました私が、日本へ帰るまでから間もなく、或る夕方、電車の中で卒業生の一人と逢いました。それは学校の近くに住んでいた若いお母さんでした。その方が基督教主義の保育をする幼稚園が如何に必要であるかということ、非常な熱心をもって話されましたが、それを聞いていた中に、私はこの要求はどんなにしても満たさなければならぬものだと感じたのです。よしんば、最高の幼稚園を作ることが出来ないにしても我々の力で出来る範囲での最上のものである筈だと考えました。

このように、「学院に通う弟妹や近隣の子どもたちにキリスト教保育を」とのご父母の方々の切なる願いを受け、ブラックモア先生のご慧眼によって一〇〇年前に

生まれたのが東洋英和幼稚園です。今日まで神さまが幼稚園をお守りくださいましたことに感謝し、多くの方々のお祈りを覚え、学院と幼稚園では創立二〇〇周年の準備を進めてまいりましたが、その柱であったのが、二〇一五年一月一日(土)の「東洋英和幼稚園創立一〇〇周年記念式」と、「卒園生のためのホームカミング」でした。礼拝後の祝会では、元園長・丹羽輝子先生の作詞による「東洋英和幼稚園一〇〇周年のうた」を披露しました。また、『史料室だより八三号』には、前園長・大伴栄子先生による、史料室に所蔵されている昭和一〇〜三〇年代の東洋英和幼稚園の保育日誌の解説が掲載されています。学院本部棟の史料展示コーナーには幼稚園の歩みを記した年表、幼稚園に関わられた宣教師の先生方の写真などが二月頃まで展示されています。

学院創立一三〇周年・幼稚園創立一〇〇周年記念事業として、来年度からはよい女児の三年保育も始まり、全学年とも男女混合となります。東洋英和幼稚園が、これからも神の御栄えをあらわす園でありますように、「敬神奉仕」を心に刻み、また二〇〇年目に向かって子どもも大人も手を携えて、祈りつつ歩んでまいります。

カナダでのお墓参り 宣教師の先生方に感謝して

昨年「ありがとうを桜に託して」という思いで、学院の教育の基礎を築いてくださったたくさんの方の宣教師の先生方をお送りくださったカナダの地に、桜を寄贈することができました。六月には植樹式に招かれ深町院長はじめ、同窓生有志ら計三名がカナダに行つて参りました。その折に六名の宣教師の先生方のお墓参りを行うことができました。

今回訪れたお墓はすべてハミルトン市近郊にあり、有賀牧師が探しあてたものです。「桜プロジェクト」でも大変お世話になったカナダ合同教会引退牧師、有賀誠一牧師は、学院創立者ミス・カートメルの母教会であるセンチナリー教会の副牧師でいらした時、ミス・カートメルの墓の在りかを突き止め、埋葬場所に墓石を置き、二〇〇五年七月三十一日に除幕式を執り行うまでにした立役者です。お墓参りの経緯は「史料室だより」No. 80



と81に詳しく載っています。有賀牧師は、その過程で幾たびも聖霊の働きを感じ、また思いがけない人たちとの出会いを経験し、神様の深い御旨によるものであることを悟らされた、と記しています。

墓参はそのつど次のような流れで行われました。市場などで花を買い、バスで墓地に向かいます。広い芝生の中にあるお墓に到着すると、誰もが協力して、水を探し、ペットボトルに水を入れ、墓石にかけて、日本から持参したたわしや歯ブラシで苔むした墓石を掃除します。献花をし、宣教師の先生のお写真とともに現在の学院の様子を示している新マーガレット・クレイグ記念講堂での礼拝の写真、『カナダ婦人宣教師物語』を供えて用意を整えます。有賀先生からお墓参りに至る経緯を伺い、ゆかりのある方が代表し、皆で心を合わせ祈りを捧げました。

学院創立一三〇周年という節目の年に宣教師の先生方のお墓に詣でて、先生方のことを覚え感謝できたことは、これからの学院にとって、建学の精神を忘れることなく歩むための大切なことであつたと思います。



Martha J Cartmel
1845.12.14-1945.3.20

ミス・カートメル

六月二五日の日曜日、センチナリー教会で聖日礼拝を守ったのち、学院の創立者であるミス・カートメルのお墓に向かいました。先生が葬られている場所は、二〇〇四年当時、センチナリー教会のアーウィン牧師と有賀副牧師が東洋英和のために探し当ててくださり、また墓石がなかったため、一族の方々と連絡を取り合い、墓石建立に奔走していただきました。そして二〇〇五年七月、墓石の除幕式が行われました。今回はカートメル一族のクロスご夫妻、ブロムさん、またブラウン宣教師とともに訪れ、一同で先生に感謝の祈りを捧げることができたことは、この上ない喜びでした。



Hamilton Cemetery
777 York Blvd., Hamilton



Muriel F Scruton
1899.10.27-1980.12.28

ミス・スクルトン

先生は主に戦後、短期大学保育科の教授としてご指導くださいました。先生の指導を受けられた芝碁子名誉教授は、旅行前に催された「桜プロジェクトセミナー」で、実習指導は大層厳しいものですが、ご自身にも厳しく使命感に溢れた方とお話しくださいました。保育科の同窓会誌「はぐくみ」には、妹様によると、亡くなる前に自分で挨拶状を用意し、火葬にすること、礼拝司式者に日本人の牧師を依頼することを決めていたとあります。教え子の芝先生が、心をこめてお祈りくださいました。身だしなみのセンスが抜群でいらしたスクルトン先生。私たちががお供えした芍薬の花を喜んでいただけたでしょうか。



Woodland Cemetery
750 Spring Gardens Rd., Burlington



Mount Osborne Cemetery
4228 William St., Beamsville

先生は第一五代、一七代校長で、制服校章、標語、校旗、校歌を制定し、現在の東洋英和の教育の基礎を作り、校舎建築の大事業を成し、戦後も短期大学保育科で主任を務めるなど大きな働きをしてくださいました。その先生のお墓を訪ねるべく、ビームズビルという小さな町に向かいました。このお墓も有賀牧師がカナダ合同教会のアーカイブズの方が教えてくださった新聞に掲載されていた死亡広告を頼りに見つけてくださいました。同時期に日本で宣教師として働いていらしたミス・ハードと一緒に眠っている方も多く、多くの思い出とともに感謝の祈りを捧げました。



Ridgeway Memorial Cemetery
(New Cemetery)
Ridgeway Rd. and Farr Ave., Fort Erie

六月一六日、ソロルド市での式典の前に中高部・短期大学で英語や英文学を教えてくださいました先生のお墓を訪れました。参加者の中には先生の教えを受けて深く敬愛していた方々が多く、皆なつかしい思い出をお持ちのようでした。ここでは驚きのゲストが待っていてくださいました。マシューソン先生の紹介で五〇年以上前からずっと東洋英和の同窓生と文通が続けている、という方です。有賀先生がお墓を訪ねた際に偶然出会われたそうですが、私たちの墓参に合わせて来てくださったのです。着方の凶解と共にプレゼントされたというピンク色のお着物はおられ、ともに祈ることができました。(右ページ写真)



Mount Zion Cemetery
Hwy 52 & 2nd Concession Rd. 2W,
Copetown

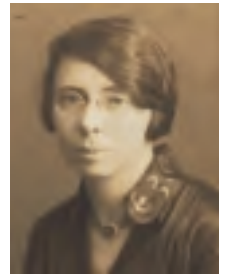
六月二七日、ハミルトン市桜植樹式の前に先生のお墓を訪ねました。アーウィン牧師、有賀牧師が通っていらつしやる聖パウロ教会で、海外宣教活動を支援していたサンダース先生が自ら宣教師となつて日本へ渡つたことが最近わかりました。先生は戦後再来日され、小学部、中高部、短期大学で英語を教えられました。有賀牧師はダンダースでお葬式をした、という唯一の情報だけで墓地を探当てます。なかなか見つからないでいた時に、木の間に埋まっていた先生の墓石を見つけたことができました。小学部時代に英語を教わつた参加者の一人がお祈りを捧げました。



お話しくださる有賀誠一牧師
Interment Glove Cemetery
129½ York Rd., Dundas

式典後、見晴らしの良い高台にあるケギー先生のお墓へ向かいました。先生はサンダース先生と同じ聖パウロ教会から宣教師として派遣されました。ミス・カートメルのお墓を見つける四年前に、ミス・ケギーのお墓の場所がわかり、英和関係宣教師のお墓探しの出発点でもありました。大学で家政学を修め、公衆衛生や健康、栄養、料理などを教えたようです。先生のお墓参りが今回の旅の公的の最後でした。数名とはいえ宣教師の先生方に感謝を述べることができ、深い信仰に基づいた東洋英和の歩みの来し方とこれからの思いを馳せつつ、皆温かい気持ちに満たされたカナダの旅となりました。

ミス・ハミルトン



Frances G Hamilton
1888.8.17-1975.3.16

ミス・マシューソン



Mildred E Mathewson
1908.3.29-1986.11.29

ミス・サンダース



Violet A M Saunders
1899.9.11-1980.7.24

ミス・ケギー



Margaret D Keagey
1880.4.4-1953.10.28

東洋英和幼稚園創立100周年～保育子ども学科での取組

二〇一四年、創立一〇〇周年を迎えた東洋英和幼稚園。東洋英和女学校時代に開設された付属保母養成所の伝統を受け継ぐ大卒保育子ども学科では、建学の精神である「敬神奉仕」に基づき、キリスト教の人間観と子どもの理解に立った保育者養成を継承しています。今回は、保育子ども学科の二つのゼミの取組をご紹介します。

村上哲朗ゼミ

村上ゼミでは、子どもの遊びと遊び場の研究をテーマに活動しています。

保育子ども研究所主催で、毎年二回(春季、秋季)開催されるイベント「子どもの広場」での遊びの提供や、二・三歳児対象に、生涯学習センター開講科目として毎週開催される「親と子どもの体操」に関わりながら、子どもの運動能力の拡がり学びます。今回は、「かえで祭」の中で「子どもの広場」を開催することになり、学生の手作り遊具で作上げた子どもアスレチック広場での催しとなりました。雨の中で開催することができました。

かえで祭準備レポート

「明日は絶対に晴れますように。」とっちゃん広場の準備の様子をお伝えします。

保育子ども学科 3年 岡田和



ネットの修理風景
「落ちないようにしっかり結んでね!」



滑り台の補修風景
「滑りやすくなったかな?」

かえで祭の「てっちゃん広場」を開設するにあたり、準備では特にネットトランポリン遊具の修復に力を入れました。元々トランポリンは壊れていてしばらくの間使えない状態でしたが、今回のかえで祭の準備の時間を利用して、村上先生を中心にゼミ生で力を合わせてゴムを通して、さらに、何重にも縄で安全補強をして子どもたちが遊べるように修復しました。トランポリンだけではなく、全てのアスレチックをゼミ生一人ひとりが確認して、当日に備えました。なかなか屋外でできるトランポリンは珍しいのか、

大学・大学院

例年子どもたちが並んで待つほど人気があるアスレチックのひとつです。「てっちゃん広場」では、楽しさだけではなく、安全性も重視していることのひとつです。子どもたちが怪我をしまつては、せっかくの遊びが台無しになってしまふので、私たちは、子どもたちが自由に遊び、笑顔で帰ってもらえるようにアスレチックは十分に安全整備をし、準備をしました。

かえで祭当日レポート

「願いが叶って晴天。たくさんの方が立ち寄ってくださいました。」

保育子ども学科 4年 金子綾華

私たち、村上哲朗ゼミの四年生は、半年間、横浜のプレイパークに足を運び調査してきました。その中で、子どもたちが自分で遊びを見つけ、自由に過ごしながらも安心して遊ぶことができるような、周りの大人たちの安全配慮の在り方を見てきました。これらの学びと経験とを村上先生と私たちとで作った「てっちゃん広場」でも活かし、安全な手作り遊具による遊び場を、かえで祭に来てくださった親子に提供しました。そこでは、日々のゼミでの活動の成果を踏まえ、子どもたちがより楽しめるような言葉掛けや関わり合い、安全配慮を心掛けました。私たちは子どもたちが、安心して挑戦す



落ち葉もいっぱい、きれいだね。何を作ろうかな。



タイヤの上で「じゃんけんぽん!」

ることができるとも重要な環境であると考えています。かえで祭では、常設されている遊具ではなく、手作りで温かみがある遊具で、子どもたちが安全にのびのびと身体を動かすことができる環境作りをすることができたと思います。また、子どもたちに遊びの中で何かを達成する喜びを少しでも感じてもらいたいと考え、子どもたちが「てっちゃん広場」から帰る際に折り紙で作ったメダルをプレゼントし、喜んでもらいました。

山下久美ゼミ

一〇〇周年を迎えた東洋英和幼稚園の保育方針の一つとしても、子どもの自然との出会いを大切にすることがあげられています。大学は横浜校地の広い緑地を活かして、保育子ども学科の学生たちと共に、近隣の子どもを学内へ招く活動をしてきました。三年前からは横浜市との共催で「よこはま森の楽校」英和もりっこ行事を開催するようになり、来場者数は三年間で、子どもたち三二九名、保護者は三〇五名を数え、かえで祭期間の子どもたちの人数を数えれば、一〇〇〇名近い人数になります。

もりっこ活動レポート

横浜市と共催で始まった英和もりっこ。今年度で三年になります。

保育子ども学科 3年 貝瀬若菜

梅雨に入る前の六月、私たち山下ゼミは「もりっこ」と題し、子どもと保護者を招いて自然体験活動を行いました。企画は、森探検や自分たちの収穫した野草・木の実を使った調理の試食、染物遊びなどで、今年のもりっこも参加者の皆様に好評をいただきました。メイインイベントの森探検は、学生が一族に一名ずつ付き添って自然物の紹介や道案内を担当しました。子どもたちは安全基地である保護者と、物知り博士のようにいろいろなことを教えてくれる学生と一緒に、英和



オタマジャクシいたいた!



学生による紙芝居にみんな夢中

の豊かな自然を満喫していたようです。葉が赤や黄色に染まる季節に行われる「かえで祭」では、自然物を使った制作活動を行いました。自然物のリースの蔓や、メタセコイアの実、押し花などは全て英和の自然の中で採取できるものを使用しました。子どもから大人まで自然物を使って、自分の好きなように表現し、リースや壁掛け、しおりを制作していました。一年間を通してさまざまに変化を見せる美しい自然があり、子どもたちに豊かな体験を提供できる英和を自慢に思うと同時に、この活動を続けていけることを誇りに思います。

学院創立130周年を迎えて～希望の学としての「英和学」

東洋英和女学院大学 名誉教授 原島 正



「英和学入門」の講義をされる深町正信院長

生涯学習センター

今日、学校ことに私立学校は、それぞれの個性の喪失という危機に直面しています。社会の要請に応えることは、公教育機関として当然なことです。けれども、私立学校は創立者の理想とする教育理念にもとづいて設立されました。時代とともにそのあり方が変容することは、避けられませんが、私立学校の独自性は維持され、発展させていかなければなりません。

東洋英和女学院は、創立一三〇周年を迎えました。もう一度、建学の精神を想起し、それをどのように今日に生かしていったらよいかを、考える機会です。私立学校に希望があるとしたら、建学の精神の想起と再生にあると言えます。その意味で「英和学」は希望の学です。

大学の生涯学習センターの講座としての「英和学」には前史があります。二〇〇六年秋に当時国際社会学部教授であった伊勢紀美子先生をコーディネーターとして「日加文化交流史(一)」カナダ宣教師たちの働きーキリスト伝道・教育・福祉事業」が開講されました。その講座は、二〇一一年まで六回、毎年開講され大学内外の多くの講師により講義がおこなわれました。そして、翌年から「英和学入門」として継続し、三年目になります。今回は、深町正信院長に二回お願いし、私が八回担当します。テーマは東洋英和・静岡英和・山梨英和の源流である「メソジスト・キリスト教」の成立と展開です。内容は深町先生に一八世紀イギリスに信仰復興運動として始まった「メソジスト」の創始者であるウエスレー兄弟の生涯と信仰、さらにはカナダ・メソジストの特色と今後の課題について講義していただきます。私はキリスト教史における教派成立、近代日本におけるミッション・スクールの果たした役割等を考察します。未来への前進は、過去への関心から可能となります。



受講生の質問に答える原島正名誉教授

Bangladesh・スタディーツアー報告

生徒会担当 加藤 講太郎

東洋英和女学院二五周年記念行事の一つとして始まった Bangladesh デシユへの支援活動も今年度で五年目となりました。今年度も Bangladesh デシユへの ACEF スタディーツアーに中高部から二名が参加し、よい学びの時となりました。

私を変えた Bangladesh デシユ

高等部一年 森田 智子

Bangladesh デシユで現地の人々と触れ合った二週間、それは私にとってかけがえのないものとなりました。世界最貧国といわれるこの国での生活は、時に戸惑うこと、ショックを受けることもありましたが、毎日が驚きの連続で学ぶことや考えさせられることの多い、とても充実した時となりました。

スタディーツアーではいくつもの学校を訪問させていただきました。一つの長机に肩を寄せ合い熱心に勉強している子どもたち、その目は輝いて見えました。彼らは勉強することが大好き



学校訪問 スラム街にて

なのです。将来の夢を尋ねると、「医者」「先生」「パイロット」「エンジニア」など口々に答えてくれました。彼らが勉強に励む姿勢、そして私の質問に答える様子を見て、学ぶ熱意は日本の私たち以上にあるのではないかと思いました。

しかし、この国で大学に進学できる人は少なく、ましてや希望の職業に就ける人などごくわずかであると現地スタッフの方から伺いました。しかし彼らは、勉強することが自分たちの未来につながると思っていて目を輝かせて勉強に励んでいるのです。

私は今回 Bangladesh デシユ・スタディーツアーに参加し、これまで持っていた自分の価値観がとも変わったように思います。このスタディーツアーに参加するまでは、Bangladesh デシユの子どもたちのためにできることを見つけてこようと考えていました。しかし実際は、私が子どもたちに何かを与えるというよりも、彼らから学ぶことのほうが多かったのです。

これからもいろいろな国に興味を持ち、その国の人たちから学ぶとともに、支援する活動をしていければいいなと思っています。

話す言葉も肌の色も文化も違う、でもそんな事は関係ない！ 大事なものは心

高等部一年 和里田 美結

何不自由なく生活する日々、そしてそれを当たり前だと思っている自分。そんな自分に刺激を与えたい！そして視野を広げたいと思いついてこのスタディーツアーに参加しました。

「Bangladesh デシユ」この土地で過ごした二週間は私にとってすごく充実した時間でした。同じ地球という星に住んでいるのにも関わらず、日本とは全く違う場所でした。クラクションが鳴り響く道路、停電することが当たり前



学校訪問 みんなで！

の電気、そして道に広がるゴミの山…。全ての事が私に衝撃を与えました。

しかし、それと同時に、Bangladesh デシユの人々の優しさを知ることが出来ました。町で手を振ればみんなが手を振り返してくれる、感受性豊かでも好奇心を示してくれる子どもたち、快く迎え入れてくれる現地スタッフの方々。私はそんな Bangladesh デシユの人々が大好きになったのです。そして、過ごしていくうちに、現地の人と同じ視線で向き合うことで心が通じ合うようになりました。近所の子どもたちには、「みゆみゆみゆー一緒に遊ぼうー」というように呼びかけられるようになり、言葉は通じないけれど本気で通じているのが分かりました。また、一緒にジャマルプールへ行ったり現地スタッフのファルークさんは「自分はガイドではなくみんなと家族になれた気がする」と言ってくれました。その時、私の頬に大粒の涙がこぼれました。話す言葉も違う、肌の色も違う、文化も違う、けれど思いが通じればどんな状況でさえ、心が通じ合えるものなのだと思います。この体験は一生の宝物になりました。

社会科夏の特別プログラム

中高部社会科体験授業（オープンスクール）

首相官邸見学

～6年生の感想より～

- 親しみのあるこの辺りのことを歴史を通して学べたことが印象的でした。「武士はなぜ高い所に住んでいたのか」など、自分の意見と一緒に、他のみんなの意見を共有して学ぶと、自分一人では思いつかないようなことも考えることができ、良い機会となりました。
- 私は歴史の授業が大好きです。今回歴史と地理のことについてどちらも学べて、とても嬉しかったです。また、社会の授業の答えは一つではなく、色々な答えができるのだな、ということが学べました。これからも考えるときに、色々な意見を出していこうと思います。一番おもしろかった歴史は、かえるをまつている稲荷神社です。昔の歴史や言い伝えが、今でも続いているのだな、ということがよく分かりました。
- 桜島の模型を作る作業は楽しかったです。地図を見たときは平らだけど、横から見ると山になっているのが分かりました。私は社会が苦手ですが、今日の勉強で好きになりました。



iPadを使つての意見交換



等高線をなぞつての模型制作

～6年生の日記より～

- 普段、テレビで見るような会議室や大ホール・小ホールなど、たくさん見学することができました。印象に残ったのは、それぞれの部屋のデザインの工夫です。春夏秋冬のそれぞれをイメージして作られている部屋は、とても素晴らしかったです。視覚的な効果だけではなく、嗅覚的な効果（香りなど）も取り入れられているところにもすごいと感じました。



春をテーマにした空間・大ホールにて

夏休みの初日に六年生希望者四九名が、中高部の先生方による社会科の授業を体験させていただきました。iPadを操作して意見を送信すると、電子黒板には自分の意見だけでなくみんなの意見が映し出されます。先生から、人とは違う個性的な意見を大事に取り上げ

ていただくことで、安心して発想を広げることができました。また、「六本木駅と麻布十番駅のどちらが近いと思うか」という身近な例から、鳥居坂や麻布十番の地理や歴史を詳しく教えていただくと、六年生は大変興味深く話に聞き入っていました。最後に、等高線をなぞつ

たプラスチック容器を重ねて立体的な模型ができて上がると、簡単に高低差を実感することができ、さらに地図について興味が出たようです。楽しくあつという間に一時間過ぎ、中学での社会科の授業がますます楽しみな became ようです。

たり、大臣の座るふかふかの椅子に腰かけてみたりと、少しでも大臣になった気分を味わえたこともまた、大変貴重な体験となりました。これをきっかけに、私たちの生活を支えている国のしくみや社会について、さらに関心を深めていってほしいと願っています。

増改修工事後の園舎紹介

幼稚園創立二〇〇周年事業の一つとして園舎の増改修工事が夏休み中(工期七月一四日～九月二日)に行われました。新園舎のご紹介をいたします。



玄関から新園舎を見る
左は既存の園舎、奥は5歳児の新保育室



玄関には靴箱と大人用お手洗い(誰でもトイレ)が
増設されました



5歳児保育室から園庭を望む



砂場や石のすべり台があった場所に
5歳児保育室が増築されました



3歳児保育室奥に
シャワー室と
裏庭へ通じる扉が
できました

新しい環境にも慣れ、子どもたちのにぎやかな声が響いています。

大学付属 かねで幼稚園

木工への入り口 —カナヅチと釘とAちゃんと—



庭で釘を打つ子どもたち

子どもたちの好きな遊びのひとつに木工があります。かねで幼稚園の木工には、子どもの発達と保育環境から考えられた道具使用を身につける順序があります。まずはカナヅチで釘を打つことをたっぷりと繰り返します。それからノコギリを挽くこと、木端と木端を釘で打ち合わせること等を楽しもうになっけていきます。

二〇一四年度三歳児クラスの子どもたちは、春から秋までは遊びながら大きい子どもたちの木工をする姿に目をとめ、いつかできる日を楽しみに待っていました。そして一〇月に釘打ちから、木工活動への一歩を踏み出しました。

あるよく晴れた日に、芝生の上に置いた木材に三歳児の担任がトントンと釘を打っていると、子どもたちが「私もやりたい」「ほくも」と言っけて来ました。その中

にAちゃんもいました。保育者はAちゃんの手をとって、カナヅチの持ち方や釘の打ち方を教えます。初めての釘打ちなので、力の入れ方が分からずなかなか釘が入っていかなかったり、カナヅチの頭を両手で持って打とうとしたりします。そのうち釘が曲がってしまったり、自分の指を打ちそうにもなります。保育者は「Aちゃん、カナヅチのここを持ってみましょう」「釘を押さえてよく見て打つのよ」などと、手を添えて教えます。Aちゃんは釘をよく見つけ、トントントントンと慎重に一本の釘を打っていきます。その様子を周りにいた子どもも傍でじっと見ていました。何分かつたでしょうか、Aちゃんは時間をかけて一本の釘を最後まで打ちこみました。「最後まで釘が打てたわね」と声をかけると、Aちゃんは嬉しそうな顔でニコりと笑います。それから「もう一回」と言っけて、その日Aちゃんは繰り返し釘打ちを楽しみました。

この日のカナヅチとの出会いが、Aちゃんの木工への入り口になりました。これから三歳、四歳、五歳と順を追って体験を積み重ねていく中、Aちゃんにとって木工が喜んで取り組む遊びのひとつとなっけていくことでしょう。

東洋英和幼稚園

■始業・園舎増改築

竣工感謝礼拝

9月16日(火)

■ファミリーデー

10月11日(土)

新園舎のご披露を兼ね、祖父母、父母の方々と楽しいひと時を持ちました。劇団「おはんばやし」の皆さんの催し物を観、子どもたちの手作りのゼリーをいただき、スタンプラリーをしました。

■引き取り訓練

10月17日(金)

地震発生で公共の乗り物がストップと想定。なるべく自宅まで歩いて帰る徒歩歩園を実施。四時間かけて帰宅した親子もいました。

■りんご園遠足(五歳児)

11月14日(金)



ファミリーデー

大学付属 かねで幼稚園

■五歳児追分キャンプ

8月27日(水)～29日(金)

■四・五歳児ファミリーデー

10月18日(土)

大学グラウンドにて、親子で体を動かして楽しみました。

■四・五歳児芋掘り

10月29日(水)

歩いて三〇分程の芋畑に芋掘りに行きました。

■創立記念日礼拝・音楽会

11月5日(水)

学院創立一三〇周年、かねで幼稚園創立四一周年を覚え礼拝を守りました。

■誕生日会・収穫感謝礼拝

11月13日(木)

一月の誕生日会は芋掘りで掘ってきたサツマイモと持ち寄った野菜で豚汁を作って食べました。



おいしい豚汁を作ろう!

小学部

■修学旅行

9月16日(火)～19日(金)

六年生が京都・奈良・吉野へ三泊四日の修学旅行に行きました。歴史遺産を見学し、伝統的な文化に触れました。

■キリスト教講演会

10月9日(木)

学院オルガニストの河野和雄先生をお招きして、パイプオルガンについてのお話と演奏をしていただきました。興味深いお話と素敵な演奏を子どもたちは楽しみました。

■学芸会

11月28日(金)

一・三年生は歌、五年生は英語による発表、二・四・六年生は劇を行いました。一人ひとりがそれぞれに輝き、充実した一日となりました。



学芸会

中高部

■夏期修養会(軽井沢追分)

7月31日(木)～8月2日(土)

今年も福島県原町聖愛保育園のお友だち一五人をお招きして追分の自然の中どもに過ごしました。

■体育祭

10月11日(土)

大学の広々としたグラウンドで、リレー、綱引き、騎馬ダンス等が行われました。今年は一組の赤が優勝しました。

■楓祭

10月24日(金)、25日(土)

テーマは「Prism」。多様な色の光のような英和生の個性が、各クラブで表現されました。今年もNHKで「花子とアン」が放映され、入場者も増えました。



追分の清々しい朝、みんなで体操しました

大学・大学院

【大学】

■ヨコハマ大学まつり

10月4日(土)・5日(日)

横浜市内三〇の大学が集まり、本学もダンス部とチャリダーズ部の演技、二つの講座、村岡花子さんゆかりの品の展示で参加しました。

■かねで祭

11月2日(日)・3日(月・祝)

今年「リボン」をテーマに、天候にも恵まれて二日間五千人を越える来校がありました。模擬店出店、課外活動の発表や展示で日頃の成果を発揮しました。

【大学院】

■学位授与式・後期入学式

9月20日(土)

五名の修了生、五名の入学生の新入式を祝いました。



かねで祭(かねで祭実行委員のブースにて)



“目覚め”のはじまり

生命現象を物理学で解明する「生物物理学」の研究を推進され、85歳になられた現在も、さまざまな分野でご活躍の和田昭允さん。その全ての原点である東洋英和幼稚園での日々や、東洋英和への思いを語っていただきました。

とてもモダン

もう八〇年の昔です！ 私は東洋英和幼稚園に一九三五年四月に入園しました。父方の祖母の木戸壽榮子(旧姓山尾)が「東洋英和女学校」の卒業生だったこと、加えて私の曾祖父は英国に留学、祖父の二人ともが一〇代で米国に留学し、父も英国に留学、という親英米ファミリーだったので、親はその雰囲気から早くから感得させたかったのだと思います。

幼稚園の場所は今と違い、六本木からの大通りを右に女学院の方に曲がってすぐ左でした。そのスタイルは、二〇年ほど前まで鳥居坂上で重厚な存在感を示していたW・M・ヴォーリズ設計の校舎と同じで、まことにモダン。新築二年ほどで、床なども写真にあるように、磨き上げられてピカピカ。この中央の大広間では、皆で朝のお祈りをして「主われを愛す」を歌ったり、大きな積み木で遊びました。それを囲んで、二クラスそれぞれに分かれてお話を聞いたり、ゲームをする部屋がありました。お庭には睡蓮が咲く池がありましたが、ある日私はそこにボチャン。すぐ裸にされて、真っ白なタオル地のバスロープを着せられ、服が乾くのを待ちました。池への転落事件は日常茶飯事だった

らしく、用意万端整っていました。



卒園(1936年3月)写真。後列向かって右2人目から、湯浅、福島(主任)、ミス・ハミルトン(17代校長・園長)、長野の諸先生。私は前列左端のセーラー服。2列右端が「クッツキ坊主のカズコちゃん」、3列の右から2人目が「ピアノのカズコちゃん」

ガールフレンド

子どものときは女子がマセている上に私はオクテだったので、同級のお嬢さんはみんなお姉さんに見えました。その中でも色白の「カズコちゃん」が素敵で、一緒にいるのがただただ嬉しくて、いつも後ろについて歩いていたら「この子、グッツキ坊主」だネー」と言われてしまった。夕食のときに家族に話したら大爆笑。クラスにはピアノが上手で、後にプロの演奏家となり第一八回(一九四九年)日本音楽コンクール(ピアノ部門)の入賞者にもなりました。関原和子さんがおられたので、家では「ピアノのカズコちゃん」とグッツキ坊主のカズコちゃんと言いつけていました。

一年下の塩原邦子さんとは母親同

士が親しかったこともあって、一番仲良くなりました。その後もご縁は深く、私が一九五四〜五六年に米国のハーバード大学の博士研究員だったときに、クニコちゃんはボストン郊外のNewton College of the Sacred Heartに留学されていて、何回もデートをすることになります。話はそれで終わりません。彼女は私の紹介で、東大での私の先輩の原礼之助(元セイコーインスツルメンツ社長)さんと結婚され、この五〇年以上(半世紀!)は夫婦ぐるみの親しいお付き合いとなり、今でも年に何回も夕食を一緒にしながらクニコちゃん、アキヨシちゃんと呼び合っています。楽しい会話を楽しんでいます。

それから

私は学習院初等科・中等科・高等科(旧制)と進み、東京大学理学部化学教室を卒業、前述のハーバード大学に留学します。ここでは「生命現象」を「物理学」で解明する「生物物理学」という新しい学問の開発に携わり、一九六一年に東大理学部物理学教室にその研究室を立ち上げました。東大に停年(六〇歳)まで勤めたあと、理化学研究所のゲノム科学総合研究センター所長などをしてから、二〇〇九年からは日本ではじめて「サイエンス」を校名に掲げた横浜市立

「横浜サイエンスフロンティア高等学校」で、科学技術日本の将来を担う彼女らを育てています。いま、その全ての原点にある幼稚園の頃を懐かしく有り難く思い出しております。

東洋英和は、その創立理念と国際性、それから、品格の高さで、日本を代表する際立った存在です。その自信と誇りを持つての、皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。



1935年のクリスマスの集まり。前列左から4人目の白襟がクニコちゃん。私はその左後ろ、2列目の園児の左から2人目、顔が半分隠れている

■わだ あきよし／東京大学理学部物理学教授、東京大学理学部長、日本学術会議第4部長、理化学研究所ゲノム科学総合研究センター所長を歴任。ネスレ科学振興財団委員長、横浜こども科学館館長などを務めた。現在：東京大学名誉教授、理化学研究所研究顧問、横浜サイエンスフロンティア高等学校常任スーパーアドバイザー、ロッテ財団評議員。紫綬褒章、勲二等瑞宝章、横浜文化賞を受賞。

村井(小林)悦子氏 元中高部教諭 二〇一四年一月八日
 宮部黎子氏 元中高部教諭等 二〇一四年二月二日

聖書の言葉



小学部ステンドグラス

【賛歌。ダビデの詩。】
 主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

詩編二三編一節

作者ダビデは、羊飼いの少年で、主
 に選ばれて、イスラエルの王となった
 人です。彼は、詩と音楽の才能に恵ま
 れていたので、私たち人間と神との関
 係を羊と羊飼いの関係にたとえ、私た
 ちに対する神の愛に満ちた恵みを歌い
 ました。「主はわたしを青草の原に休ま
 せ 憩いの水のほとりに伴い 魂を生
 き返らせてくださる。主は御名にふさ
 わしく、わたしを正しい道に導かれる。
 死の陰の谷を行くときも わたしは災
 いを恐れない。あなたがわたしと共に
 いてくださる…」(詩編三三：二～四)

主は私たちの羊飼いです。羊に必要
 なものはみな与え、導いてくださいま
 す。その主の恵みに感謝し、喜び歌う
 この賛歌が、今を生きる多くの方々
 の心に響き渡る二〇一五年(ひつじ年)で
 あることをお祈り申し上げます。

中高部聖書科教諭

朴 洙美

おたよりコーナー

TOYO Wa-Wa

NHK連続テレビ小説「花子とアン」でブラックバーン校長役を演じられたトードイ・クラークさんが、2014年9月30日に中高部に来校され、朝の礼拝でお話しくださいました。在校生から寄せられた感想をご紹介します。

トードイさんの礼拝を伺って

私たちは、9月30日の礼拝でNHK連続テレビ小説「花子とアン」でブラックバーン校長役を演じられたトードイ・クラークさんのお話をお伺いすることができました。お話を伺った日が答案返却日だったこともあり、初めに「試験の結果は、その過程ほどに重要ではない、ということを中心に留めておいてください。」とおっしゃったのがとても印象的でした。また、英語でのお話の後に、たくさん勉強されたという日本語でのお話もしてくださいました。お話からは、トードイさんの意志の強さや、「花子とアン」への覚悟と熱意がとても伝わってきました。同時に、外国である日本での生活の大変さもわかりました。この日のお話を通して、日々努力することの大切さなどを知ることができました。とても良い時間を過ごせたことを、心より感謝しています。



松坂 美月
 中学部宗教活動委員長

お便りをお待ち
 しています!

〒106-8507 港区六本木5-14-40
 東洋英和女学院法人事務局
 総務企画部総務課 まで

e-mail: koho@toyoeiwa.ac.jp でも、お待ちしております。

史料室レター No.15

村岡花子の常設展示コーナーができます

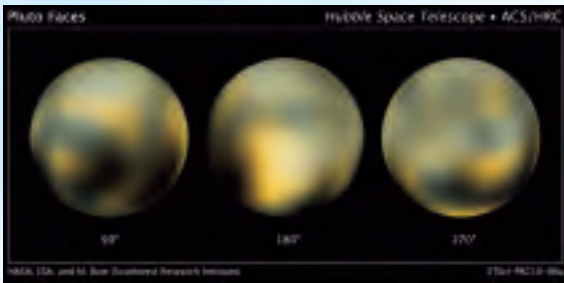
昨年は史料室にとって、花子に明けて花子に暮れたと言っても大げさではありません。いつもは静かな史料展示コーナーに、一般の方々が六五〇〇名も来られて熱心に見学していかれました。
 学院にとって光栄なことに、村岡家から「赤毛のアン記念館・村岡花子文庫」でお持ちの花子さんの蔵書や机などを学院に寄贈して下さることにになりました。史料展示コーナーを模様替えて村岡花子の常設展示を設けることにしています。どうぞお楽しみに。

ヨコハマ大学まつりの「大学のお宝」コーナーにも「村岡花子と東洋英和」を出展しました(2014年10月4・5日みなどみらい21にて)



史料室連絡先 ● TEL:03-3583-3166 FAX:03-3583-3329
 E-mail: archive@toyoeiwa.ac.jp

冥王星



「ハッブル宇宙望遠鏡が捉えた冥王星」
表面には暗い部分と明るい部分があるが変化をしていく。
窒素が温度変化により、凍ったり、溶けて気体になったりしてこのような変化が起ると推測されている。
©NASA, ESA, and M. Buie (Southwest Research Institute)

二〇一五年になりました。皆様にとってよい年でありますようお願いいたします。さて今年、天文ファンにとつても楽しみなことがあります。探査機・ニューホライズンズが七月にいよいよ冥王星に最接近します。この探査機は二〇〇六年一月に打ち上げられました。この時、冥王星はまだ「惑星」でしたが、その年の八月、国際天文学連合(IAU)は、冥王星と他四つの天体を「準惑星」としました。冥王星が「準惑星」になるこのニュースは当時のトップ記事となり、冥王星を発見したクライド・トンボの母国アメリカでは反対運動が起こりました。では、どうしてIAUは、冥王星を惑星ではないと判断したのでしょうか。

一九八〇年代まで、太陽系は「海王星まではたくさん天体があるが、その外側には冥王星だけ」としか



「他の衛星から見た冥王星とカロンの想像図」
冥王星には現在5つの衛星が発見されている。
一番大きな衛星「カロン」は冥王星の半分程度の大きさを持つ衛星で、1978年に発見された。
©NASA, ESA and G. Bacon (STScI)

解っていませんでした。しかしその後、観測機器の発達により、海王星の外側には冥王星以外にもたくさんの天体があることが解ってきました。二〇〇三年にはエリスという冥王星よりも大きく、より遠くにある天体が発見され、これらは全て惑星なのだろうか…という疑問が生まりました。そこで惑星の定義がつけられ、それに該当しない冥王星は準惑星となったのです。
冥王星に届く太陽光線は地球とは比べものにならないほど弱く、マイナス二三〇℃の極寒の地です。少し前までは太陽系最果ての地だった冥王星。いったいどのような姿をしていて、どんな世界なのでしょう。ニューホライズンズに搭載されているメモリーは大変小さいので、冥王星に到着したこの探査機から送られてくるデータの送信には、相当の時間がかかると聞いております。しかし、そのひとつひとつの写真、結果の全てをこれから楽しみにしています。

後援会より

2014年度後援会役員懇談会報告

2014年10月3日(金)、後援会役員懇談会がANAインターコンチネンタルホテル東京で開催され、出席者数は学院側も含め約120名でした。学院各部を8つのグループに分けて分科会が行われ、家庭での生徒の様子、英語教育、キリスト教教育、受験対策、留学や就職活動などについて、後援会役員と教職員が有意義な意見交換を行いました。



全体会



金子栄一
後援会会長の挨拶



小学部部門の分科会

2015年3月卒業予定のみなさんへ

「楓園」は、年3回の発行のうち、9月号と1月号が「東洋英和楓の会」により同窓生全員に無料配布されます。また、学院ホームページに毎月掲載しますので、卒業後も是非読んでください!

同窓会より

■同窓会クリスマス礼拝報告

2014年12月6日(土) 13時半、学院創立130周年を覚え母校を育ててくださった神様に感謝の想いも携えて講堂へと集まりました。大学オーケストラ部「主よ人の望みの喜びを」の前奏で礼拝が始まり、メサイアをうたう会がメサイア第1部「預言から御子イエスの誕生」までを奉唱、中高部合唱部OG Lilies Harmonyの初奉唱と豊かな素晴らしい響きが講堂を包みました。高橋貞二郎牧師(中高部宗教主任)から「あなたの中の最良のものを」と題して御子を与えてまで愛して下さる神様に私たちは何をなすべきかとの心に沁みるメッセージをいただきました。厳かなパイプオルガンの調べに合わせて共々讃美歌を、最後にハレルヤを力強く歌いあげました。若い同窓生、大学の初参加と多くの感謝に満ちた礼拝から、L—輝く、E—英和、D—同窓生としてそれぞれの場へと散らされて行きました。

